

# 那須平成の森だより

自分だけの自然に出会う

## 第11回 「自然環境モニタリング」

もともと御用邸用地だった「那須平成の森」が一般開放されたのは、今から約10年前の平成23年。それまで那須平成の森はどんな場所だったのでしょうか？

今は木々に覆われていますが、大正15年に御用邸用地となるまでは、在来種の農耕馬（那須駒）が放牧されており、ススキ草が広がっていたようです。

それから約90年、自然が手つかずの状態になったことで、豊かな森が育ってきました。そこにどんな動物がいるの？人が利用することによって、どんな影響があるの？それを知る手がかりとして、那須平成の森では、モニタリング調査を実施しています。

調査項目は、植物、中・大型哺乳類、爬虫類、両生類、チョウ・ハムシ類、魚類、ネズミ類、ヤマネ、サンショウウオ類、水質、外来植物など。それぞれの項目について、調査手法や時期、ルートなどを決め、定期的に調査します。

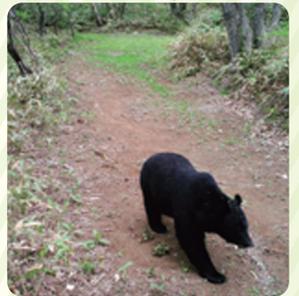
調査結果から、いくつか読み取れることがあります。ツキノワグマ、ウサギ、ヤマネなど、たくさん生き物のすみかとなっている

こと。木々が徐々に太くなり、今も森全体が成長していること。このことから、平成の森開園前から今に至るまで、豊かな環境が維持されていると言えるのではないのでしょうか。



チョウ・ハムシ調査の様子

一方、気がかりな環境変化にも気付かれます。人が多く入るところには、外来植物が進入しました。また、開園時にはほとんど確認されなかったニホンジカやイノシシが急増し、樹皮はぎや掘り返しの跡も見られるようになりました。森の植生が変化し、昆虫や小動物の生きていく環境が変わってしまうので



中・大型哺乳類調査では、センサーカメラで動物の種類や数を調べます

ほど、危機感を感じます。この調査結果を踏まえて、どんな対策が必要か、専門家の先生と考えています。

難しい課題もありますが、那須平成の森が、いつまでも喜びや発見を与えてくれる場所であり続けるように、これからもモニタリングを続けていきます。

環境省日光国立公園管理事務所

宮森由美子

## かつこう

5月5日の「こどもの日」は、もともとは古代中国の菖蒲（ショウブ）を用いた邪気払いの行事で、年齢や性別に関係ありませんでした。後に日本では菖蒲を勝負にかけて、男子の武運や発展を願う節句に変化したといえます。▼鯉のぼりは、当初は紙で作ったそうです。住宅事情などで鯉のぼりを立てるのが難しいとき

は、「鯉のぼりの代わり」ではなく、あえて紙で作って飾るのも良いですね。▼さて、新年度が始まり1カ月。日本には1月の正月と4月の新年度と二つの節目があります。1月に「今年はこの年にしよう」と誓ってもなかなか実行できないとき、4月にもう一度思い出して、「今年度もこそ」と再スタートが切れるのはとてもありがたいと感じます。▼進学や就職、職場の異動など、この春から新しい環境で、

新しいことに取り組んでいる人もいます。▼新しいことは「慣れないこと」でもありません。緊張や不安があったり、慣れないことに時間がかかったり、落ち込むこともあるかもしれませんが、そうして新しいことに挑戦している皆さんは、本当にすごいと思います。▼でも、少し疲れを感じたら、悠々と空を泳ぐ鯉のぼりを眺めたり、家族とゆっくり過ごしたりして、気分転換してくださいね。

## こんにちは 赤ちゃん



令和2年3月19日生

あかり 幸良 朱莉 ちゃん (大日向) 父 直樹さん 母 恵里さん

朱莉ちゃんは… いたずらが大好きなあかりちゃん。元気いっぱい子育てね！！

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

## 町の世帯と人口 (4月1日現在・住民基本台帳) ( )の数字は前月比

●世帯数 10,458世帯 (+29)  
●人口 24,679人 (-44)  
男 12,276人 (-30)  
女 12,403人 (-14)

出生 6人 (- 3)  
死亡 37人 (+ 5)  
転入 136人 (+63)  
転出 147人 (+76)  
その他 4人